

事業実績について

1 対象実績数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
卒寿者	221人	250人	249人
長寿者	51人	51人	53人
合計	272人	301人	302人

2 贈呈の記念品

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
卒寿者	5,000円	5,000円	5,000円
長寿者	10,000円	10,000円	10,000円

記念品：平成22年度より、従前の時計等の物品からギフトカードとしている。

3 多摩26市の当該事業の概要

別添付の資料のとおり。

外部評価結果

《総評》

施策の目的として、長寿のお祝いとして、今までの社会貢献に感謝し、高齢者への関心と理解を深めることの他、安否確認、見守りを上げているが、年1回、90歳、100歳以上の方への訪問等を主とする本事業の内容では、安否確認、見守りという面では当該目的に対し効果的な手段とは言い難く、改めて事業の目的を再整理する必要がある。また、長寿を祝うことを主たる目的として、今後も多くの方を対象に事業を継続するのであれば、贈呈する事務負担にも配慮しながら単価を見直し、贈呈範囲の拡大等を研究していくことも必要である。

《主意見等》

- ・安否確認を行うという意図であれば、商品券でなくても良いと思う。
- ・安否確認、見守り事業との整合が必要である。
- ・贈呈回数や贈呈方法の工夫が必要である。
- ・将来的には、金額面で精査が必要と思う。
- ・渡すものの単価を下げてもらう回数を増やすなどして、もらいやすくなった方が市民に喜ばれると思う。
- ・対象人数は、100歳以上は横ばい、90歳は今後増加が見込まれる。

担当課の所見

- ・個人の趣向が多様化する中、過去に行った指定した物品の贈呈は不評であった。また民生委員に贈呈してもらう方法としても、贈呈品を直接本人に手渡しすることで遺漏なく適正に実施されるため、現時点では現行の方法が妥当と考えている。なお、現金給付の場合は、事務処理上受領印をいただき会計部門に報告するため、内部書類を外に持ち出すなどのリスクがあり、事務処理を行うに当たってふさわしくないと考えているためにギフトカードとした。
- ・本事業の趣旨は敬老を祝う事業であり、見守り等については、あくまでフォロー的役割と考えているが、民生委員が直接本人と会うことでその役割を可能としているなど利点があるものであり、9月の老人週間中に完結する事業として、現行の事業回数が妥当と考えられる。また本人には事前にハガキ等でお知らせしているため民生委員の訪問もスムーズに行われている。
- ・今後の課題としては、超高齢化社会を迎える中で、90歳の卒寿者が増大していくと思われギフトカードの単価等を検討していく必要がある。

課題及び今後の対応について

- ・担当課の考え方により取組みを進めていく。